

# 『おくすり教育検討会（拡大版）』

日 時 : 令和元年 9 月 12 日 (木) 20:00~22:00

場 所 : 多摩小平保健所 講堂

(司会進行 福田早苗)

(議事録作成 三宅暁子)

## 《 次 第 》

( 敬称略 )

### 1. 開会の辞

啓発事業企画運営委員

中島 正登

・日頃からお薬教育に携わっている学校薬剤師も多くいるとは思いますが、地域全体としてはまだまだ割合が低い。学校薬剤師がお薬教育に関与することのメリットをわかっていただく時期だと考えており、本日の講演を生かしてほしい。

### 2. 保健所の立場から

多摩小平保健所

生活環境安全課長

福田 洋之

生活環境安全課統括課長代理

(薬事指導推進担当) 光川 篤志 (欠席)

・薬の正しい知識を身につけ、理解を深めるための教育が必要。違法薬物を決して使用しないという薬物乱用防止の推進にも効果があると考えている。小平市のお薬教育を多くの地域で共有し、取り組んでいただきたい。検討会がさらなるお薬教育の推進に資することを願っている。

保健所からのお知らせ：薬事講習会 10月10日木曜日 19時半より ルネ小平にて

### 3. 【 講演 1 】 医薬品の適正使用と薬物乱用防止

国立精神・神経医療研究センター

依存性薬物研究室室長

船田 正彦

・医薬品の適正使用、薬物乱用の解決に薬剤師の働きが求められている。その中でも本日は処方薬（向精神薬）、市販薬の乱用問題について考えたい。

・薬剤師はメーカー等などから正しい、最新の情報を努めて集めていかなければいけない。適正使用には薬剤師だけでなく、医師、患者との関係性が重要。効果、副作用についての情報収集が大切。

・薬物関連疾患の調査より、覚醒剤は変わらないが危険ドラッグは所持犯ができて減少。今では持っても罪にならない処方薬の乱用が主流になってきている。

・日本では危険ドラッグが減少しているが、海外では新しい化合物（NPS；new psychoactive substance）がでてきており、麻薬や覚せい剤について問題になっている。現在 200 種類ほどリストされている。

・10代では市販薬の割合が高いが20代以降では睡眠薬、抗不安薬が増える傾向。市販薬ではブロムワレリル尿素含有のもの、処方薬ではベンゾジアゼピン受容体作動薬（BZP）が主である。

・BZP に対して非 BZP があるがどちらもベンゾジアゼピン受容体作動薬である。化学構造の違いであり作用点は同じ、非 BZP は安心と誤解している患者もいる。

・BZP は作用時間が短い薬が乱用されやすい(覚せい剤や麻薬も同様)。

・BZP は不安、不調や苦痛の緩和のために使われているのが覚醒剤や麻薬と違う点。長く使っていると離脱症状がみられ、用量、用法を守らずに使用する。原疾患が治っているのか見極めずに漫然と使用している状態には注意が必要。

・BZP の減量は難しく、慎重に時間をかける必要がある（年単位で）、医師との連携が重要。乱用していると思われるケースは声掛けから対話へ、相談援助機関や薬物専門の医療機関へつないでいくことが大切。

・薬物乱用防止教育では早期発見、早期介入で回復を目指せること、専門機関への相談ができること等伝えることが重要。

#### 4. 【講演2】 薬剤師がかかわる“おくすり教育” 日本くすり教育研究所

代表理事 加藤 哲太

・平成20年の中教審答申：学校薬剤師が保健指導においても専門性をいかし貢献していることが評価され、医薬品に関する適切な知識を持つために更なる貢献をすることが期待されている。

・お薬教育の教材は？進め方は？等々色々あるけれどとりあえずやってみよう。

・薬物乱用について色々な団体関わっているが、市販薬、向精神薬やスマートドラッグ等については薬の専門家として薬剤師の働きが必要。

・鎮痛剤の乱用：正しい使い方を誰が教えるのか⇒薬剤師でしょ！

・資料、教材の基本は学習指導要領。日本学校保健会、日本くすり教育研究所も見てください。

・日本くすり教育研究所：色々な教材のダウンロードが可能。教材は教員と薬剤師が協同でできるように、ノートにポイントと講義例を加えたり等改正。

・養護教諭との協同で振り返り学習をしたい、保健指導に生かしたい等の要望が出てきた。

今後のキーワード『アクティブラーニング』

授業後振り返り⇒グループ学習⇒生活指導、目標の設定⇒チェック、評価。

養護教諭だけでなく担任のアイデアも取り入れる（寸劇など）

・中学校ではクラスごとに行い評価することが必須となっている。薬剤師の負担が大きい。

添付文書等を教材に教員が授業を行い質問、疑問を出してもらおう。その後に薬剤師が複数のクラス（合同）で授業、解説するパターンなど検討中。各校にあったものを考えていく。

・これからのくすり教育：養護教諭、他の教員との協働、養護教諭のスキルアップ、保護者への啓発

・今回、学習指導要領が変わるのがよいきっかけになるので、ぜひ取り組んでほしい。

#### 5. パネルディスカッション

～ 薬剤師が“おくすり教育”を実践する上での問題点について ～

パネリスト	日本くすり教育研究所代表理事	加藤 哲太
	国立精神・神経医療研究センター	
	依存性薬物研究室室長	船田 正彦
座長	日本くすり教育研究所理事	福田 早苗

本会の開催にあたり簡単なアンケートを取ったが、以前に比べてお薬授業や薬物の授業の経験のある

方が多くなっていると感じた。今後、授業に取り組みたい、内容を充実させたい等熱意のある方がお集まりなので、困っていることなど積極的にお話しいただきたい。(福田)

・船田先生の資料の出典は？(堀内)

⇒すべて報告書として開示。国立精神・神経医療研究センターのホームページから薬物依存研究部にアクセスする。(船田)

・処方薬の乱用が増えているというのは興味深かった。事例があれば教えてほしい。(堀内)

⇒危険ドラッグが出てくる前は二位であったので急に増えてきたわけではない。BZP を中心とする処方薬をきれいな人が多いという現実はずっとあった。他には複数の違う診療科を受診して薬を集めるといった例あり。(船田)

・ダルクの方から、覚醒剤をぬく過程で向精神薬を使うことがあり、合法的に色々な薬がもらえるため、向精神薬の依存症となりそこから脱却するのが大変だったと聞いた。

私がお薬教育に取り組むようになったのは、OTC(ブロムワレリル尿素)の乱用者に会ったことがきっかけ。小学校に薬物乱用防止教育もするが薬の正しい使い方の話もさせてほしいとお願いしたところから小平のお薬教育が始まった。(福田)

・BZP の注目すべき点に過量服薬の問題がある。過量に服薬することで自殺に対する不安も隠れてしまい自殺してしまうような例もある。自殺を考えると、ゲートキーパーとして薬剤師は最前線にいるといえる。薬物乱用のみならず過量服薬(自殺)も大きな問題として考えていかなければならない。(船田)

・お薬の授業はできても、薬物ことは他の団体等が行っておりなかなか入れないこともある。各校に合ったやり方を考えていかないといけないので情報提供をお願いしたい。(加藤)

・小平のおくすり教育は加藤先生の協力により徐々に広がり、各校の担当者ができるようになってきた。はじめはとても無理という人もサポートしていただきながら自信をつけ、養護教諭と相談し行うようになった。その結果、学校それぞれの形になってきている。(福田)

・豊島区のお薬教育は故田中先生がはじめられたがなかなか他にできる人がいなかった。昨年亡くなられた田中先生の遺志をついでやりたいと学校に申し入れても時間がない等で難しいことが多かった。今回、加藤先生のサポートを受けて6年生2クラスに授業を行うことができた。(林)

・どこに行っても一人でなく一緒にするという形にしている。薬剤師、養護教諭によって異なる授業になるのがおもしろい。(加藤)

・小平のお薬教育の歩み：加藤先生の協力に加えてセルフメディケーション振興財団の助成対象事業となり助成金を頂いたことが大きい。これにより小中学校でお薬の正しい使い方の標語を募集し、優秀な作品をポスターにして市内の公立小中学校や会員薬局はもちろん保健所や市役所など市内の公共施設に掲示を依頼した。続いて集めた標語を利用してお薬手帳を作成した。学校薬剤師だけでなく周囲の方々も巻き込んでやっていくのがよい。お薬教育をするうちに薬物も頼まれるようになり、スキルアップのために船田先生に講演を依頼したことがきっかけで現在に至っている。(福田)

・カナダで大麻が合法化されたが日本では禁止。外国では認められているのになぜ日本ではダメなのか、海外の現状はどうかを子供たちに聞かれたときに説明できるバックグラウンドを持っていることが重要だと思う。(船田)

・学校薬剤師が提案する保健室常備医薬品&保健室のセルフメディケーション：助成金で作成。現在はア

マゾンで販売中。日本くすり教育研究所のホームページよりダウンロード可能。(福田、加藤)

・学校から発信するくすり教育(2013年9月学術大会)について、小平での実践内容とともにそこから見えてきた課題を口頭発表した。(照沼)

・くすり教育について保護者に話すときに子供たちとは違う点を教えてほしい。(堀内)

⇒子供の用法、用量等の知識はもちろんだが、それぞれ違う子供の行動を注視してほしいこと、親子共通の話題にしてほしいことを付け加える。(加藤)

・青少年育成委員からの依頼により保護者に話をした。加藤先生のお話と同じようなことで親が目を離さないこと、中学生くらいでは親よりも知っている可能性があると話した。スマートドラッグや小児用量についてもふれたが知らない親もいた。(小田)

・小金井市では活動している薬剤師が少ないためなかなか実行できないことが多い。2年に1回位、薬物乱用防止教育やPTAにお話をする程度。将来的にどう活動していくべきか本日の話を聞きながら考えた。(高山)

## 6. 閉会の辞

啓発事業企画運営委員

米澤 裕二

本会開催にあたり、多くの方々にご協力いただき感謝している。

参加された皆様が担当校において、さらに充実させたお薬教育を実践していただきたい。

また地域に持ち帰りこのような教育活動の発展、推進に努めていただけることを願っている。

今後もこのような会が開催できることを期待し、本会を閉会する。

# おくすり教育検討会(拡大版)アンケート集計結果

令和元年 9月12日実施

## 参加者状況

所 属	小平	清瀬	西東京	東久留米	東村山	小金井	国分寺	練馬	豊島	品川	学生	合計
参加者	15	1	5	5	9	2	3	1	1	4	3	49
アンケート回収枚数	8	1	4	4	9	2	3	1	1	3	2	38

## 0 事前アンケート

所 属	小平	清瀬	西東京	東久留米	東村山	小金井	国分寺	練馬	豊島	品川	合計 人中)	(46)
薬の正しい使い方のみ	4	0	0	0	1	0	1	0	0	2	8	17.4%
薬物乱用防止のみ	1	0	1	1	1	0	1	1	0	1	7	15.2%
薬・薬物両方	9	1	1	1	7	2	0	0	1	1	23	50.0%
授業経験なし	1	0	2	2	0	0	1	0	0	0	6	13.0%
記載なし	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	2.2%

## 1 本日の“おくすり教育検討会(拡大版)”は参考になりましたか。

所 属	小平	清瀬	西東京	東久留米	東村山	小金井	国分寺	練馬	豊島	品川	学生	合計	
参考になった	7	1	3	4	9	2	3	1	1	3	2	36	94.8%
まあ参考になった	1	0	0	0	9	0	0	0	0	0	0	1	2.6%
(考えさせられた)	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2.6%
参考にならなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%

## 2 来年度以降、五市合同お薬教育検討会の開催は必要だと思われませんか。

所 属	小平	清瀬	西東京	東久留米	東村山	小金井	国分寺	練馬	豊島	品川	学生	合計		
必要	年一回	5	1	4	3	7	2	2	1	1	2	2	30	78.9%
	2年に一回	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	3	7.9%
	その他 (1回/ 2~3年)	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1 (1回以上/ 年)	0	3	7.9%
必要ない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
記載なし	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	5.3%	

## おくすり教育検討会(拡大版)アンケート集計結果

### \* 期待する内容

所 属	小平	清瀬	西東京	東久留米	東村山	小金井	国分寺	練馬	豊島	品川	学生	合計	
教材について	4	1	4	3	8	1	3	1	1	1	1	28	73.7%
授業の進め方	2	1	4	3	7	2	2	1	1	1	2	23	60.5%
導入へのアプローチ	0	1	0	0	4	1	3	1	1	1	0	12	31.6%
マンパワーの確保	2	1	0	0	0	1	1	1	0	2	0	9	23.7%
各地での取り組み	4	1	2	0	1	1	0	0	1	2	0	12	31.6%
“おくすり教育”の課題	5	1	3	1	2	0	1	1	1	3	1	19	50.0%
その他	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	7.9%

- その他として
- ・最新情報
  - ・実際にどんなことをやったかの実例を知りたい。(実際の授業内容)
  - ・アクティブラーニングについて

### 3 ご意見、ご感想などございましたらぜひお聞かせ下さい。

- ・小平のおくすり教育の足跡がわかって、面白かったです。  
小平の学業にとっては、いつもの事ですが、他市の方々にとってはかなり有意義な会になったと思います。
- ・本日はありがとうございました。(3)
- ・今年度、初めて学校薬剤師をすることになり、参加しました。  
実際に学校で授業をしている方々の話が聞けてとても良かったです。
- ・本当に熱さが伝わってきました。ありがとうございました。
- ・最近2018年の薬物乱用の状況、乱用されていた睡眠薬・抗不安薬などがわかって勉強になりました。  
HPの紹介もありがたかったです。ところどころ何の話をしているのかわからないところがありました。
- ・処方薬や市販薬による乱用が問題であることに気づかせていただき、大変な学びがありました。  
薬物乱用とおくすり教育には切っても切れない関係であると学びました。
- ・大変参考になりました。  
子供たちへの教育のみならず、高齢者への指導にも役立てると思いました。ありがとうございました。
- ・立川保健所の方でも今年度は、薬育に力を入れていくとのこと。参考にさせていただきます。
- ・いつもありがとうございます。一步一步、少しずつでも前に進めていきたいと思えます。
- ・次回も期待しております！ まずはトライ！ 頑張ります。  
これからもどうぞ宜しくお願いします。ありがとうございました。
- ・とても参考になりました。持ち帰って少しでも実践できればと思います。  
次回ありましたら、また参加したいと思っております。